

電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

ELIC

2019年9月10日

No 381

1部100円

発行者：ELIC編集委員会谷口利男
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8
電話(03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会

原発問題を考える学習会

58人が出席する

東芝の職場を明るく会（東芝の会）は、8月31日13時40分～16時30分、川崎市総合自治会館の会議室にて後藤政志（工学博士・原子力市民委員会）さんを講師に迎え「原発問題を考える学習講演会」を開催し、研究者・市民・労組など58人が出席しました。司会は「東芝の会」羽田副代表が行い、開会挨拶を石川代表、主旨と問題提起を海老根副代表が行いました。



講演は豊富な資料で行う

後藤さんは「原発ゼロに向かって何をすべきか？—原発の仕組みから見た安全性—」と題して80Pのプレゼン資料で講演をされました。（上写真）

最初に3・11事故が発生した時に、炉心はメルトダウンしている、冷却ができない、原発は人がコントロールする事が難しいので携わった技術者として「声を出さなければならない」と思い、リストラにNOと言わなければならないとの意志が強調されました。講演では、事故発生した当時の原子炉の水位が間違っ表示されており、ベントも本当に出来たかも不明と指摘され、現在も炉心にロボットを入れているが放射能などで故障し20～30台炉心内にあり、トリチウムをタンクに貯めているが100万トンを超え、フレコンパックが山積みになっているがそれを道路や堤防に使用する案が出るなど無策が続いており、原子力政策の抜本的見直しが必要と強調されました。

質疑応答は9人が行う

質疑応答では9人が行き「福島原発事故の原因は地

震か津波か」「地震後50分間は電気は流れており温度や圧力などのデータは記録されていた」「9月の県議会でリストラについて知事に質問する」「柏崎原発は3000箇所有问题があり調査している」「炉心を製造していた労働者からシュラウドにクラックが生じていた」「職場の若い人が危機感を持っていた」「地震では物の固有振動があるので対応が難しい」「東芝の会HPにコメントを載せて頂きたい」「ユニオンでは会社に団交で追求し職場に労働運動を構築して行きたい」など、双方向での意見交換で深まりました。

閉会挨拶を電機懇今井代表が行う

電機で2009年「原発の危機と平和を考える」、2012年に「原発ゼロ、再生可能エネルギーへの転換」学習会を開催し、3回目となり、原発ゼロを実現させようと訴えました。

今月号の紙面

- ①原発問題を考える学習会
- ②電機懇第32回総会議案の情勢
- ③電機懇第32回総会議案の方針
- ④東芝のリストラ反撃アンケート
- ⑤ルネサスのCEO交代アンケート
- ⑥ラプラス「リタイア」成木さん
- ⑦電機情報ユニオン、青年コーナー
- ⑧電機懇「第32回総会」の案内「からむす」普及。集積回路